

えば、今後はそういったことを減らしながらも、ぜひ何とかお納めいただけるような、そんな努力もしてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

○大道寺 信委員長 4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 終わります。

小関秀一委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位7番、議席番号5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 大分春めいた天気で、春の兆しがぼかぼかと伺えるきょうでありますけれども、予算総括最後になります。よろしくお願ひ申し上げます。

提示されております26年度の予算については、説明のあったとおり122億円、昨年度から比べますと、金額で9億3,000万円、8.2%の増額になる大型予算であります。さまざまな市民生活のための新しい事業も起こしながらの予算ということでもありますので、一つ一つ意義のある、またちょっとその工夫が必要かなというふうなことも含めて提示されております。

私は、予算総括に当たりまして、3つの項目で質問をさせていただきます。

一つ目は、マスコミ等でも長井市の予算の概要の記事の中では、大きく市営バスの拡充についても報道されております。かつて、私も一般質問でも市営バスのメリット、デメリット、課題や改善点等について質問をさせていただきながら、市民の足としては、理想的にはデマンドが一番と利便性があるんでないかというふうなことを申し上げたことがありました。今回、25年度の調査事業でさまざまとめられまして、今般の予算の中で、特に7月からの予定として、新しい路線で市営バスが運行されるということ

でありますので、少し市営バスの運行について質問させていただきます。

予算的には、バスの運行経費として、バスの購入とはまた別に2,178万円ほどの運行経費がかかると、収入見込みとして551万9,588円を予定しておられるということでもあります。ですので、全体の長井市の負担は1,400万円ほどの経費で、新しい路線できめ細かく市民の足を守られるということでもありますけれども。

まず最初にですが、企画調整課長にお伺ひします。私どもは10月にも調査の中間報告をいただいて、市民の方々の意見としてさまざまなアンケートと住民の意見をお聞きになったということではありますが、主に私、特に注目したいのは、どういった年齢の方からの調査なりがされたのか、その辺確認をさせていただきたいと思ひます。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 各地区のほうの地区説明会のほうにつきましては、各地区の役員の方々でございまして、年齢と申しますと、大体高齢者の方が中心になろうかと思ひます。若い方もいらっしゃいますけれども、その中で説明をさせていただきました。

一番の今回のバスの導入は、地域の足ということで、今後高齢化社会を進むに当たっての高齢者の足を、公共交通の足というふうな一番の目的がございまして、ここでは実際的には地区にばらつきがありまして、多く参加いただいたところ、少ないところということもございました関係で、さらにミニデイサービスのほうにも入らせていただいたところでは、ミニデイサービスにつきましては、10カ所ほど入らせていただいて、地区の役員の方々だけでなく、実際にお乗りいただくことを想定してご意見を伺ってまいったところでございます。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 報告していただいた部分

で、アンケートと地区の意見集約、あと今、課長からあった、その10カ所のミニデイでもさまざまな意見をいただいたということで。

ただ、残念なことに、地区ごとの意見交換会については、私の地元である平野もそうなんです、少ないところで2名、平野は3人とか、西根が一番多かったのかな、16名ということもあったわけですが、非常に参加者が少なかったなど、私は見せていただいたところです。

今、課長からあったように、ミニデイの対象者はほぼ70歳、65歳から入っている人もいんべげんども、非常に高齢の方。実際に自分の体、年齢を考えて、今さまざま不安や現実には足の心配、買い物の心配をされてる方が対象ですので、現実的な意見が出たのかなというふうには思われますが、できればもう少し中年層、若い人の意見もあっても良かったのかなというふうに思うんですが。

なしてかっていうと、これ循環してるっていうふうな交通手段については、やっぱり今現在もやってるわけで、コースが非常に雑多というか、大ざっぱだっていうことも理由の一つにあっかと思うけんども、こういう田舎ではぎりぎりまで高齢者も車に乗られる人は乗るということで、乗車率っていうのはなかなか上がんねなでないかなというふうに思うわけなんです、その辺の意見なんかはどういうふうな捉え方してるんですか。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 お答えいたします。

今現状の部分で、西根バス、それから致芳・平野バスという傾向を見ますと、西根バスのほうは大変少しずつ経年的に減っている。逆に、実は致芳・平野バスは今もう、今回の調査事業の効果かわかりませんが、大変健闘しているという状況です。20年ですか、22年に若干コースというのか曜日の変更などを見た際も、致芳と平野については増えているって傾向はあった

んですけども、その後下がっているという状況でございます。

このような傾向を見ますと、実際にお乗りになっている方々は、傾向とすれば、やはり市内の買い周りや医療施設、そういうようなところを利用されているという方がほとんどでありまして、それに対する公共交通というふうな考え方が一番ではないかというふうには考えておるところですが、伊佐沢地区などにおきましては、いわゆる地域の足ということで、高校生の通学にお使いいただいている方もいらっしゃると思います、そのほかの地区にも当然ながらいらっしゃると思います。多様なニーズということを考えますと、私ども進めるに当たりましては、相当そういうようなニーズの部分に合致するような、やはり時間帯とかサービスとか、そういうような部分を付加しながら利用を促進してまいることが大切なことだと考えています。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 私も今回の生活交通ネットワーク計画、これは策定というふうなことで、私んところについては案をいただいたわけで、これから実務的な打ち合わせをし、予算もとってということになるわけですが、何年か実績を見せていただいて、報告もきちんとしていただいて、その後の課題の解決なり対応なりを進めていただきたいもんだなというふうには思ったところです。

現実的にこの報告書を見せていただくと、随所に意見としてもだし、事務方のまとめの中にもドア・ツー・ドアの表現っていうのは随所に出てます。これは、多少意見もあったし、事務方も必要か否かについての迷いも、読ませていただくと随所にあるなというふうな思いもしたわけです。

特にですが、経費かかると。これは行政サービスですので、予算を含めて、今回の新しい路線にしても、実際には長井市の行政負担は大分

今までよりは増えるということは、これ事実なわけですが、じゃあ例えばですが、報告書の154ページに、長井市以外の近隣の白鷹町、飯豊町、高島町、川西町のデマンドとの運行経費、利用者負担と人口1人当たりの負担等々いろいろ比較表がございます。私、一番ちょっと注目したっていうのは、いずれの長井市以外の町もデマンドを対応しておるところで、年々実は減ってるんだというふうな表現はありながらも、お隣の、例えば飯豊町については、人口約8,000人の中で利用者が年間に1万5,000人以上いらっしやると、すごくその利用されてるなど。これはその地域柄というか、あと地形的ないろいろな理由もあっかもしれないし、理由のこまいところについてはわからないわけですが。例えばです、今回の利用されてる飯豊町の運行経費については2,000万円で抑えてるということです。長井市の、例えばデマンドをした場合の試算表だと、運行経費3,000万円で、路線バスよりは500万円ほど持ち出し経費が多くなるので、経費も路線バスのほうが有利だと、経費がいっぱいかかんねという報告がここの中に含みとして載ってるのかなというふうに思うんですが。

例えば、飯豊町が今やってる運行経費2,000万円で長井市が試算した場合に、運行経費3,000万円かかるという、その差について、もし調べやった中身がわかれば教えていただきたいんですが。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 お答えいたします。

想定人数といいますか、長井市の場合の想定人数の部分になりますけども、その部分には、今現在の運行の利用者数を見込んだ場合と、それからデマンドになった場合、利用される方々のできる方、できない方っていうのが出てくるので、そこら辺の経費を差を見ながら試算をしたということになります。

ですので、具体的になちょっと数字がこちらで

お示し、手元にないのですが、具体的例をお示しできればいいんですけども、そのような比較をした場合に、そのような今回1,400万円ほどの持ち出しというふうな形、それからデマンド交通とは500万円ほどの同じようなことでサービスを展開した場合に差が出ましたというふうなことで、一つの例示をさせていただいたということです。

先ほど委員からお話がありましたように、あくまでも案という形で、最終的には地域公共交通会議のほうにご提示をさせていただくんですが、今、さまざまな部分ですり合わせをしております。例えば路線数、それからルートなども微妙にいろいろ聞き及んでいるところがございますし、さらには議員の皆様にもいろいろとご意見をいただいた部分を加味しながら、最終的な部分でお諮りをしてまいりたいというふうに考えているところです。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 じゃあ、ちょっと資料がこまいところわかんねということでもありますので、もし、例えば、特に飯豊町のその利用人数に対して運行経費が非常に長井市の試算と大分差があるんです。ですので、ぜひこれ調査していただいて、今回は路線バスの予定でありますから、まだ、例えば将来デマンドというふうなことが想定をした場合に、なしてこれ1,000万円もその運行経費が違うのかも調査をお願いしたいなというふうに思ったところです。

非常に利用人数が多くて、実は、行政の経費を使っても、住民には非常に喜ばれて利用されているんだなというのは、この資料を見せていただいた限りで本当によくわかるわけです。

長井市は、例えばデマンドにした場合の予想年間利用人数は2万1,000人というふうに想定をされているようです。デマンドでも路線バスでも数多く利用していただいて、安心な市民生活が送れるように私は願うわけでありまして、

ぜひ少しでも安全な運行になるようにお祈りを申し上げたいなというふうに思いますけれども。

特に今現在、この間の先ごろの一般質問でも疑問点出たところでありましてけれども、小学生や学生、高校生については定期で半額というふうな処置も予定されてるようでありましてけれども、特に伊佐沢の小学生、あと致芳、豊田の例えばスクールバスを利用しての小学生の利用というふうなことの、その差が出てこないのかなというふうに、私はこの間、竹田議員の質問をお聞きしながら思ったところです。できれば伊佐沢の今までのような住民バスの形式で、遠い子供の利用についてはぜひ今から検討していただきたいというふうに思ったところです。

バスそのものの大きさが、定員が小さいということがこの間、答弁にありましたけれども、中学生が乗る場所も、例えばですが、1カ所でどっと中学生が乗るわけではないわけですので、その辺も十分と調査と検討していただいて、市内の小学生の不平等感が出ないようにぜひ検討をお願いしたいですが、企画調整課長の考えをお聞きします。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 お答えいたします。

ただいまのご質問につきましては、関連では一般質問の際に竹田議員からもご質問をいただいて、ご回答を申し上げたところです。

今想定しているバスが14人乗りというようにことと、14人乗りというのも冬期間の、いわゆる1年間通しての運行のために四駆のバスといえますか、あのようなワゴンタイプのバスが、車種的にはあれしかないというようにことで、最大14名というように形になっております。ですので、そういうふうな制約がございますので、その中で登下校時にバスの車両が確保できるのかというふうな問題と、また、その時間帯に合わせることでいろんな組み合わせをしておりますので、その路線で設定してる部分が、ダイヤ

が他方路線の利用にどういった影響があるかということでございます。

そのようなことで、基本的に主たる目標が高齢者の町というか、今後の市民の皆様のできる限りの幅広い足の確保ということを考えてございますので、当然ながら、こちらの部分については学校間、今、委員おっしゃいましたように、学校それぞれの考え方やご父兄などのお考えもあるでしょうし、また、それからスクールバス、今現在は中学校のスクールバスになってございますので、今はそのあいてる席を活用してるという状況でございますから、そのような実態で、実際それが可能なのかどうかというようなこと。

あと、それから、今現在、そのスクールバスによっては、実際、距離的な部分でいうと、歩いていく子供さん、それから同じ距離でも歩いてないで乗ってる子供さんという方も、実際的に、バスのあき席利用でございまして、そういうような部分がございますので、さまざまな面からいろいろと教育委員会なり学校なり地域なりとご相談を差し上げながら、最終的にどういうふうな一番いい方法があるんだろうかというようなことを検討していかなければならないと思います。

これにつきましては5月に最終の地域公共交通会議がございまして、市民バスですので、原則有料になってございますので、あくまでも原則有料でございまして、無料免除なりのさまざまな制度を行う場合はそれなりの理由を提示させていただいて、会議のご了承を得ることが必要になってまいりますので、そちらを踏まえていきたいというふうに考えています。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 あともう一つですが、これも一般質問で少し触れられた部分ですが、なお確認をさせていただきたいわけです。

報告書の最後のほうには、この新しいバス路線を運行するに当たっての業務委託の体系を3

つ今、提示されています。3パターンあるというふうなことです。いずれも西根のバスについては、今までどおりの西根地区交通確保対策協議会に随意契約で運行委託をするというふうな予定をされておるようですが、ほかの地区については全て一般の業者さん、1社から複数までというようなことで考えられておるということで、こういうその運行に対する責任なりさまざまな安全対策なりを考えると、その西根さんだけそういう特別な業務委託でいいのかなって私は思って、ぜひこれはできるだけ市全体で一本化するような方向で進めないものかなというふうな考えで私はいるもんですから、その辺、課長、これからの進め方について、なお確認をさせていただきたいと思います。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 この件につきましては、安部議員からもご指摘をいただいている部分です。

昨年確認をさせていただいたところでは、西根バスにつきまして、今マイクロバスを活用して、協議会のほうで運行主体となっていていますが、今現在のところでは、このまま継続して西根協議会として運行を進めたいというふうなご意向をいただいていたところでは、

それ以外のところにつきましては、タクシー会社のほうに、一つのくくりとして、協議会みたいな形でどうかというふうな考え方はあったんですが、契約上の問題で、どうもそれはなかなかいかないというふうなことがちょっとわかってまいりましたので、形態とすると、各路線ごとに各タクシー会社さんのほうに委託するのか、それとも本数をまとめながら委託するとか、そういうふうな手法につきましては、今、さまざまな条件を加味しながら詰めているところでございます。

今、議員からご指摘がありましたように、この件につきましては、タクシー会社さんとの諸条件の部分でいろいろな課題が見えてくるとい

うふうなことであれば、大変長い間といたしますが、平成の13年ごろから西根のほうで実際的にこの運営協議会、地元の足として培っていただいた部分の大変歴史ある部分でございますので、こちらのほうもしっかりお話し合いをさせていただきながら、今後以降もこれを継続するというのであれば、当然ながらそれに即した、いわゆる安全面などの体制なども十分きちとした形で、全体が不合理のないような形で進めさせていただくことで進めたいと考えております。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ぜひ、それこそ市民の足というふうなことですので、安全に、そして時間も市内循環さ合わせながら、非常に微妙な運行時間だなんていうふうに見せていただいて、便利だけに、時間さ追われて危険なことのないようにというすり合わせをきちんとしていくというのは大前提だなというふうに思います。

特に郡部においては、乗りたいところ、おりたいところで、安全な場所だと思いますが、乗りおりできるということだとすると、運行時間も大分ファジーというか、少し余裕をとんねと、大変な運行になるのかなあ。特に冬場なんか、特にそうほだべげんども、そういうふうに思いますので、ぜひ、私は安全面も考えたりすれば、市1本の契約、市全体が平らな、平等な形で契約をしていただく方向で、地区とは十分に話をさせていただきたいもんだなというふうに思います。

今回のコースを見せていただくと、非常に各地区の住民の方から、近い形でのコースどりというふうなことでご配慮いただいたというふうなことでありますけれども、例えば平野に関して言うと、飯豊町からのコースが想定されたり、致芳の場合だと、病院に向かう白鷹町とのコースが考えられたりということで、長井独自だけでなく、西置賜広域の中で生活なり、医療、置賜総合病院を結ぶ足として、さまざまなルー

トが今後も考えられる部分あるんでねえかなというふうに思います。

これはバス路線のことばかりでなくて、西置賜の経済圏なり、連携なりというふうなこと、あとコミュニティFMなんかについても、市長からはほかの町との連携というふうなことも具体的にお話がありましたので、ぜひこれからも飯豊町、白鷹町との交通網に対する連携はできる部分はないのかどうか。また、今まで検討なり、話し合ったような経過があったのかどうか、市長に伺いたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

バスなどの公共交通手段の広域ネットワーク化につきましては、これまで置賜広域行政事務組合において、管内自治体の連携事業の一つとして協議した経過がございます。

しかし、残念ながら各自治体の取り組みや考え方が違っているということもありまして、交通ネットワーク形成のための検討がなかなか進んでいないのが現状です。

一方で、置賜総合支庁、県の置賜総合支庁の呼びかけによりまして、西置賜地域の広域的な行政課題を出し合い、その解決策を探っていくための研究会が今年度立ち上がっております。

今後、このような研究会なども活用し、公共交通の広域ネットワーク化についても1市3町で情報交換や意見交換を行ってまいりたいと思っております。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 春から新年度になって、新しい小学生なり、生活もさま変わりする中で、新しい路線、これは7月からというふうな予定でありますけども、ぜひ安全に市民の足を守っていただければなというふうに思いますが、この項目で最後の質問というか、気づいたところではありますが、備品購入、バスについては、1台当たり500万円ほどでしたか。備品購入と、

あと各バス停、新しいバス停の看板、74基というふうなことで備品購入費の予算が計上されております。計画書案の随所に、ターミナルを有効に利用して、循環バスとの組み合わせをしていくと、これも非常にいいことだなというふうに思いますが、そして、しかも雨の日や寒い日などの対策も講じていくんだというふうなことであります。

ターミナルの場所については、大方の計画書に書かれておりますが、ターミナルそのものの整備については、今般の予算に計上ないと。看板とバスの購入費だけだということ、何か例えばですが、ベンチを置くなり、屋根つきのフード室をつくるとか、何か具体的な今後の予定とか、予算今回上がってないので、必要とあれば補正になるかとは思いますが、具体的な予定など、ありましたらば、企画調整課長にお答え願います。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 お答えいたします。

実際、具体的なところといいますか、想定している場所については、市役所、それからタス、それからヤマザワなど、そういうターミナルとなるようなところを想定させていただいて、いわゆるその部分が調査事業の中のアンケートなどや、それから乗車の動向などを見ますと、そこがやはり皆様が集まる場所、さらには用事といいますか、いわゆる市内の医療機関や、さらには買い物などをされて、そこで乗られるというふうな方が、傾向が多いということで、そこをターミナル化したいというふうな考えでございます。

実際、これからこのたびのご予算のほうを通していただきましたらば、具体的にそのターミナル化の部分の、やはりどのようなものが、場所的なご了解をまず得なければならないという作業でございますので、それにあわせてさまざまな看板など、それから案内の表示なども必要に

なってきます。

実際、今の委員おっしゃったような具体的なベンチ云々までは、まだまだそこまでは考えが至っておりませんでしたので、当然ながらそこのご要望なり、サービスのほうを図るというふうな部分で考えれば、やはりそちらに設置する、相手方ございますので、そちらのご理解を得ながら、必要となれば、早急に補正予算などのご要求をさせていただいて、ご理解を賜っていくことになろうかと思えます。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 それでは、検討のほう、よろしく願い申し上げます。

2番目、市民相談センターについてということで、項目としましては、(1)の婚活支援事業の多岐にわたる推進は可能かということであります。市民相談室の予算に計上されております婚活支援事業の婚活定住推進委員を新たに設けられるということで、推進委員の設置規則等も見せていただいております。

この推進委員の設置については、任務について第2条で、市民の結婚相談に対しての助言、あっせん、そして(2)として、空き家にかかわる相談の受理及び処理、(3)云々ということになって、空き家等の業務も推進委員については、業務に携わるのだと。市内外の方々から、さまざまなワンストップ相談窓口を設けて利便性を図るというふうなことで、新たな動きをしていくということでもあります。

当然、今回の定例会には、議案として第22号で、長井市空き家等の適正管理に関する条例の制定、さらには、空き家台帳の整理事業の報告書もいただいております、長井市内の空き家、空き地の調査、そして今後の対策等も取りまとめたいただいたというふうなことがあって、これからようやく長井市内の空き家、空き地等の具体的な対策を講じるスタートの年になるんだなというふうに見せていただいておりますが、

これ市民相談センターの中の婚活定住推進委員が全て婚活と、いわゆる定住なり、空き家対策で間に合うのかなというふうなことが心配であります。

条例等については、条例の設置規則等については、最後に連絡会議、空き家等対策連絡会議で、各担当11人の課長の会議を設けて、それぞれの立場で対策は講じていくというふうなことはうたわれておるわけですが、今まで私ども市民相談室の中では、婚活担当で頑張っていたいたんだべなというふうに私は、これも勘違いなのかどうか、業務の中身について、ちょっとわからない部分あったわけですが、今回から空き家等も含めての業務が拡張していくのかどうか。その辺、市民相談センターの所長にお尋ねを申し上げます。

○大道寺 信委員長 松木 満市民相談センター所長。

○松木 満市民相談センター所長 ただいまの小関委員のご質問にお答えをしたいと思います。

従来から市民相談センターのほうでは、市民の方々いろんな相談に見えられます。一般相談から空き家に対する相談等も、今までございまして、去年のデータですと、全体の相談件数が504件ほどございまして、そのうち一般相談ということで、飛び込みでいらっしゃる市民の方々の相談が212件ございました。

空き家に関しては、昨年、相談が10件というふうなところでございまして、空き家に関して言えば、こちらのほうでお話をお伺いして、担当課と思われる市民課、あとは、まち・住まい整備課の職員と一緒にその現場を見て、どういう処理ができるかということで、原課のほうで対応できれば、そちらのほうにお任せをするというようなことで、私どもは市民の方々まずは相談にいらっしゃる窓口というようなことで対応しております、今までこの婚活のほうの担当をしている職員も、一緒に空き家のほうの

相談も受けたりしておりましたので、改めてその負荷がかかるということではなくて、今回の新たな空き家の適正管理に関する条例等が施行されれば、市民の方々の関心も多くなるということで、その際の相談窓口としては、やはり市民相談のところが一番近いのかなというようなことで、まずは専門というか、そういう役割の職員を置いて、市役所の担当課のほうに話をしていくという体制は変わらないというふうなことで、ひとりの職員に荷重がかかっていくということはないというふうに考えております。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 空き家の台帳整備事業の報告を私どももいただきまして、来年度から、いや、今までの実態、そして、所有者の今後の考え方等も報告書の中でさまざまなアンケートをしたり、電話連絡等で今後の対策についてまでも調査されたというふうなことです。具体的にこれから実は解決なり、周辺の市民の方に悪影響を及ぼさないような対策を市としてもとっていくという決意が、条例制定まで進んできたんべなというふうに思われますので、ぜひその辺については、非常にプライバシーのこともあるし、周辺の住民から見れば、空き巣や放火やさまざまなことも含めての危険、あと見た目、いわゆる景観も含めて大事なまちづくりの一環だなというふうに思いますし、また特に高齢化に向かっている今の時代の中では、空き家にしたきっかけで、一番には、所有者の死亡、あと高齢によって入院や入所されたためとか、それに伴って相続人が市内にいやってとか、さまざまな高齢化社会がもたらしてきたいろんな弊害として、長井市内でも、実態としては350軒ほどだというふうに調査書には載っておりますが、これからも増えるんだべなというふうに心配しております。

です。ですので、ぜひ今回の条例の具体的な進め方も含めて、市長から決意をいただきたいなとい

うふうに思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほど市民相談センターの所長が申しあげましたとおり、空き家対策については大変深刻な問題で、ここ5年間で加速度的に増えておりますので、今後といたしましては、ワンストップの窓口ということで、今回相談員を設けたところでありまして、実際のところはまち・住まい整備課を中心とした庁内でのきちんとした対応、また移住、定住を進めるということで企画調整課を中心とした対策をとっておりますので、そういった中で、まずは問題になっているところの対応をきちんと対応すべく、条例化までしたところでございます。

今後も委員からもご指導いただきながら、万全の体制をとってまいりたいと思います。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 なお、再度ちょっと確認させていただきたいと思いますが、これは今回提示された空き家対策等の施行規則のほうで、立ち入り等については、立入調査員というふうな立場で調査をしたり、立ち入りをしていくんだというふうな規則を設けるというふうな提案がなされております。立入調査員については、市の職員なり、さっき上げました婚活定住推進委員も含めてなのか、例えば調査しました土地家屋調査士等、外部の方をお願いするのか、その件と、もう一つだけ、最後ですが、空き家等の調査事業の報告をいただいたさまざまな課題については、これからも特に外部に調査を、所有者等の確認も含めて、続けられていくのかどうか、そこを市長に最後にお伺いしたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 この件について、まち・住まい整備課長から答弁いたさせます。

○大道寺 信委員長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

実態調査、立入調査の件につきましては、25年度にまち・住まい整備課の職員で行っておりますので、台帳のまとめ方は宅建業者のほうにお願いしましたが、今後とも、空き家等の台帳の更新、もしくは調査等はまち・住まい整備課の職員で行う予定としております。

もし、抜けておりましたら、またご指摘をお願いしたいと思います。以上です。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ぜひ今後ともさまざまな課題というか、個人の財産の部分での非常に解決策が難しい例もいっぱいあると思います。ぜひ粘り強くというか、対所有者なり、相続人なり、管理人なりと穏やかな中で、周辺の方々に迷惑のかからないような対策を講じていただきたいというふうにお願い申し上げます。

3つ目であります。農業振興施策について、お尋ねを申し上げます。

予算の中に、何度か私も今までも質問してきた中間管理機構の部分で、予算上、機構集積協力金の交付事業として、表示では147万円と書いておりますが、ミスであります。1,470万円の農林課の予算措置がなされております。これについては、かつて離農給付金と言ったり、さまざまな時代に応じた国の施策の中の、今回また一つなのかなと思いきや、機構も新しくつくりながらの施策であり、事業だというふうなことも含めてですが、この予算等、長井市においての予算根拠と申しますか、農地移動の根拠について、農林課長から、もしありましたら、説明をいただきたいなというように思います。

○大道寺 信委員長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 機構集積協力金の1,470万円でございますけれども、26年度における機構協力金の予算については、経営転換協力金の部分について予算措置をさせていただいているとこ

ろでございます。その積算においては、25年度が25名で、1,210万円ほどであったことから、平成26年は、さらに離農者等が増えるであろうというようなことを見込みまして、50アール以下が5名、50アールから200アール以下が18名、200アール以上が6名というようなことで、合計29名の見込みをして、1,470万円というようなことで計上させていただいたところでございます。

どれだけ離農されるかにつきましては、やはり未知数でございますので、この予算を超えた場合については、補正で対応させていただきたいというふうなことで考えております。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ちなみに面積、今、人数というか、件数、概算でお聞きしたわけですが、これ単純に掛けると、面積はどのぐらいの予定で、5反歩以下の人は5人ということで、掛けていけばわかるわけですが、大方わかりますか。

○大道寺 信委員長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 ちょっと面積の合計までは積算しておりませんが、50アール以下が5名ということで、あと50アールから200アールが18名、200アール超が6名というようなことで、合計については、まだちょっと積算してございません。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 農業委員会を通した農業経営基盤強化促進法で42町歩ほど、これは24年度の実績ですが、あと3条、4条関係でも、大分移動の面積、あと転用の面積、近年増えてるというふうなこともあります。

また、高齢化によって中間管理機構なり、国の農業の将来像については80%は担い手という目標値も上げながらですし、実際に高齢化してる方々については、急速に集積が進むのではないかなというふうに想像されます。

ですので、この事業にのっかってというふう

なことかどうかはまた別問題ですが、ぜひ中間管理機構については、まだまだ7月以降の設立なり、具体的には今年度の秋からの田んぼの移動からというふうなことだと思いますので、農家の周知等についても、よろしくお願ひしたいなというふうに確認をさせていただきます。

もう一つだけ、課長に確認をしたいんですが、今の予算措置については、農林課で協力金の予算措置をしておるというふうなことです。農業委員会に、6款1項1目の7節の部分で、機構集積支援事業、これは中身については何かというと、臨時補助職員賃金163万5,000円というふうな手だてが、農業委員会のほうにもなってるということです。

私、前にもお聞きしたんですけども、この事業については、これから農業、農地の管理上、国はこれでやるというふうなスタートをすれば、非常に大事な窓口になるんだべなというふうに思って、心配というか、注目してたわけですが、農業委員会が窓口としてこの処理なり、啓蒙なりをしていくのか、農林課が窓口になるのか、受け皿としてはどういうふうな形になるのか、まだ見えてませんか。

○大道寺 信委員長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 機構からの委託の部分につきましては、先般、どちらにするか、どこにするかというようなことで、県のほうから調査ございまして、その中では、農業再生協議会のほうで受けると。この農業再生協議会というのは、市も入ってますし、農業委員会も入ってますし、JAも入っておりますし、また土地改良区も入っているというようなことで、相互の連携の中で取り組めるのではないかというふうなことから、またほかの市町村も聞いたところ、再生協議会が多かったということで、再生協議会が受けて、さらに細部の部分については各組織と協議をしながら、分担をしながら、連携を図りながら進めてまいりたいというふうに考えており

ます。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 受け皿が中間管理機構、県の、それから、長井市の中では再生協議会が受け皿になると。だとすると、これ市の会計というか、予算上、通らないということで整理していいの。それとも、県から農林課を通して再生協議会へ行って、手を挙げた農家にいくというふうな流れになんなべか。そこ確認させてください。

○大道寺 信委員長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 機構からの委託金につきましては、再生協議会へ直接流れるということになります。

あと、今、今回予算措置させていただいてます協力金とか、地域集積協力金とか、そういったものについては、直接市を経由して、出し手なり、受け手のほうにいくというふうな形になります。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 了解しました。

また時間かけながら、再生協議会と連携して進んでいただきたいなというふうなお願ひを申し上げます。

特に、今、細目書の集約等始まっていますし、既に今度、種もみの準備等、春作業、作付の準備始まるわけですが、今年度については、一昨年のいろいろな米の事情、需給バランスから、転作面積の、作付面積の割り当てについても大幅に減ってきたというふうな状況ありますので、特に土地利用型について、米粉等、ここ何年か、ずっと米の消費拡大の一助としてというか、手段としてマスコミ等も含めて、米粉、米粉の啓蒙というのは、多くされてきたなというふうに思うんだけど、現実的には、実需者は非常に利用しなくなったというふうな実態があります。

長井市の場合だと、製粉業者から、生産団体を通してお手上げでというふうな形で、一昨年

だと1,200俵ぐらいの一応需要があったんだけど、去年はどんと下がったというふうなこともあって、これは根気強く、米の材料の消費拡大なり、加工なりもお願いをしたいもんだというふうに思いますが、現在、市内の米粉等のいわゆる米にかかわる需給バランスというか、需要の拡大については、農林課長は、実態としてどういうふうに捉えているか、お聞きしたいです。

○大道寺 信委員長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 米粉の作付状況でございますけども、23年度は13.88ヘクタール、これを最高に24年度が11.89ヘクタール、25年には5.22ヘクタールというふうなことで、減少している状況でございます。

先ほど小関委員からもありましたように、実需者のほうから農協さんのほうに依頼がありまして、それに基づいて作付を行っているわけですけれども、実需者のほうからの需要が減ったというようなことでございまして、一番は、小麦との価格競争があるのではないかなというふうに考えておりまして、小麦より米粉のほうが高いというようなことから、なかなか使われてない。

学校給食あたりでは、年2回ほど、高いけれども学校給食のほうに提供してるというようなことでございまして、全国的には生産過剰というふうになっておって、需要の拡大が今後考えなきゃならないわけですけれども、一時は国のほうも一生懸命になってやっておった時期があったわけですけども、最近はちょっと下火になっておりまして、長井市でも家庭等での利用等を含めながらPRをしてまいりたいなというふうなことで考えておるところでございます。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 一つ、緑環境税については最後にさせていただいて、地場産品の拡大と東京事務所の役割について、これ商工振興課長

に質問しておりますので、ぜひ今回、地場産業センターの支援事業については、昨年度より地場産そのものの経費が少なくなったというふうなこともあるわけですが、支出の部分で、職員の増と、さまざまな経費増があったというふうなこと、あと、東京事務所の部分で、地場産品の拡大等が掲げられております。さらに言えば、今回、新しい市の事業として、東京事務所運営事業として企画のほうからも、これは併設という形で上がっております。この整理をどういうふうにしたらいのかなど、私ちょっとわからなかったんで、商工振興課長からは、東京事務所の現在の事業なり、目標なり、課題なりについてちょっと触れていただきながら、新規の東京事務所のことについてもお願いしたいなど。

○大道寺 信委員長 梅津和士商工振興課長。

答弁は簡潔にお願いします。

○梅津和士商工振興課長 じゃあ私のほうから、地場産東京事務所について、今年度は、やはり農産物の振興、農産振興施策からいいますと、置賜産のつや姫の販路拡大というふうなことで、JAおきたま、あやめ支店を中心とした組織と連携しながら取り組んでいるというふうな実情がございまして。

26年度につきましては、予算書にも書いてありますけれども、現地支援ネットワーク事業や海外との農産物販路拡大の調査、それから、商業見本市の参加などが考えられております。

○大道寺 信委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 ありがとうございます。

緑環境税については、昨年度より大分減額して予算になってるということで心配しております。森林の保全についても大事なというふうに思っておりましたので、ぜひ農林課長から、市長に対してもこの森林の保全、保護について活用をお願いしたいと思いました。

○大道寺 信委員長 時間がありませんので。

○5番 小関秀一委員 よろしく申し上げます。

○大道寺 信委員長 時間終わりましたので。

○5番 小関秀一委員 終わります。

○大道寺 信委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから各会計予算の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

議案第2号 平成26年度長井市一般会計予算についての質疑

○大道寺 信委員長 それでは、議案第2号 平成26年度長井市一般予算の1件について、歳入から順次質疑を行います。

まず、1款市税から12款使用料及び手数料について質疑を行います。一般会計予算事項別明細書では、11ページから19ページまでであります。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○大道寺 信委員長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

次に、13款国庫支出金から20款市債について質疑を行います。19ページから32ページまでであります。ご質疑ございませんか。

14番、高橋孝夫委員。

○14番 高橋孝夫委員 20ページの総務費国庫補助金で、番号制導入にかかる関係システム導入補助金858万9,000円について、企画調整課長でしょうか、お伺いをいたします。

まず、お伺いをしたいのですが、これ多分、このまんまの題目で支出には載っていないんだと思うんですけど、支出の項目で、この多分企画費でコンピューターの関係でどっかに入ってるんだと思うのですが、そこがどこなのか、お聞かせをいただきたいのが第1点です。

今回、総事業費が長井の場合、1,000万円超

というふうに多分なるんだと思いますけれど、これって国が決めて補助金を出すという、そういうこの中身なんでしょうけれど、全額補助でないのですか、これ。これ、かつての住民基本台帳法による改正あったわけですけど、住基ネットですね。全額、私は国の補助だったという理解をしてるんですが、そこはどうか、お聞かせをいただきたいことが2点目です。

もう一つは、これ今も申し上げましたけれど、住基ネットと何が違うんですか。多分これ、とっても危ない番号みたいな気がするんですけど、これって今度こういうふうになりますという、これ確かに国が決めたことですけど、市町村も、実はこういうふうにするのよ、そのためにこういう取り組みを進めるのよということは、私は知らしめんなねなでないかなという気がするんですが、これはどうお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

○大道寺 信委員長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 歳入のほうでは、番号制につきまして858万9,000円でございますが、支出のほう、基幹系システムの整備推進事業の中のシステム導入支援の中の番号制導入のシステム導入費ということで1,008万6,000円ほどの部分で入っております。

周知の部分ですけども、今現在のところ、大もとなる部分を、システムの部分では企画調整課、それから大もとの周知というか、さまざまな関連の部分は総務課、それから番号制に実際に担当する部分というと市民課ということで、それぞれの行政の中でそのような体制をとるといことにはしておるところですが、具体的な部分が国からどのような形でやるかというのが、まだ示されておりませんで、それが金額的な部分だけ、こういうような形でやるので、この1年間で準備をなさいたいという形、今おきてるという状況になってございます。現状でございます。